

中国国民経済の 社会主義的改造

薛 暮 橋 共 著
蘇 子 星 力

北京 外文出版社

中国国民経済の
社会主義的改造

薛暮橋 著
蘇林子 共著

北京 外文出版社

中国国民経済の社会主義的改造

1960年6月 初版発行

出 版 者 外 文 出 版 社

中 華 人 民 共 和 国

北 京 阜 成 門 外 万 寿 荘

編 号 : (日) 4050—77

00220

目次

序論	一
第一章 社会主義的国营經濟の發展	一五
第一節 社会主義的国营經濟の誕生	一五
第二節 国营經濟の指導的地位の確立	二九
第三節 社会主義的国营經濟の發展	五一
第二章 農民と手工業者の单独經營經濟の社会主義的改造	六八
第一節 土地改革後の農村の經濟狀況と中国共産党の農業協同化政策	六八
第二節 農業協同化の發展過程	八六
第三節 单独經營の手工業と零細商業の社会主義的改造	一〇八
第三章 資本主義經濟の社会主義的改造	一三一
第一節 中国の資本主義經濟の特徴と資本主義的工商業の平和的改造についての党の政策	一三一
第二節 初級形態の国家資本主義經濟	一四六

第三節	高級形態の國家資本主義經濟……………	一六四
第四節	ブルジョア分子の改造……………	一七九
第四章	社会主義的改造が基本的に完成したのちの社会主義建設事業の大躍進……………	一八九

序 論

一九四九年十月一日、世界の総人口の四分の一をしめる東方の土地に、中華人民共和国が誕生した。これは、偉大な十月社会主義革命につづく、世界史上のきわめて大きな転換点であつた。それは、大いに社会主義陣営の力をつよめるとともに、帝国主義陣営の力をよわめた。

中華人民共和国の成立は、中国のブルジョア民主主義革命の段階が基本的に終りをつげ、プロレタリア社会主義革命の段階がはじまつたことをしめしている。これいらい、半植民地的、半封建的な古い時代は二度とかえらぬものとなり、中国の勤労人民は社会主義革命と社会主義建設の偉大な時代にはいつた。

旧中国は、この百年らい、半植民地的、半封建的な社会であつた。帝国主義は長期にわたつて中国のおもな経済命脈をおさえ、中国を原料略奪、商品ダンピング、資本輸出の市場としていた。抗日戦争いぜんには、帝国主義は中国の出炭量の七〇%、銑鉄生産量の九五%以上、船腹（トン数）の七三%（そのうち外国航路が八三・八%をしめる）と公共事業のほとんどを独占するとともに、中国の金融、保険、外国貿易をその手にぎつていた。帝国主義はさまざまな特権を利用して、おどろくべき多額の利潤をかすめとつていた。第二次世界大戦前には、中国はイギリス、日本、アメリカ、さらに

はドイツ、フランスなどの帝國主義諸國が勢力範圍を奪いあつて、尖鋭な鬭争をすすめていた戦場であつた。第二次世界大戦中には、日本帝國主義が中国にたいしておおつびらに武力侵略をおこない、イギリス、アメリカなどを追い出して中国の市場と資源のほとんどを強奪した。抗日戦争の勝利ののちには、アメリカ帝國主義が日本帝國主義にとつてかわつて、おもな侵略勢力となつた。

封建的な經濟構造は、外國資本主義の侵入と國內資本主義の抬頭ののちには、いくらか破壊された。だが、毛沢東同志がのべているように、「封建的搾取制度の基礎——地主階級の農民にたいする搾取は、依然としてのこされているばかりでなく、それは買弁資本や高利貸資本の搾取と一つにむすびついて、中国の社會經濟生活のなかで、あきらかに優勢を占めていた」①。農村人口の一〇%にもみない地主と富農が全耕地の七〇%以上を所有し、人口の九〇%をしめる中農、貧農、雇農は全耕地のわずか三〇%にもみない土地を所有しているにすぎなかつた。農民が地主の土地を借りるには收穫の半分以上を小作料として地主におさめねばならず、年がら年じゆう働いても衣食にこと欠くありさまであつた。

旧中国の資本主義經濟は、あいことなる二つの部分からなつていた。一つの部分は民族資本主義である。これはおもに中小の資本主義的企業であつて、帝國主義、封建主義とのあいだに切つても切れないつながりをもつてはいたが、帝國主義からは排斥、打撃され、封建主義からも束縛をうけていたので、帝國主義、封建主義とのあいだに矛盾をもつていた。この部分の經濟を代表する民族ブルジョアジーは政治的にも經濟的にもわりに弱かつた。もう一つの部分は、買弁的、封建的な國家独占資本主義（すなわち官僚資本主義）である。この部分の資本主義經濟は蔣、宋、孔、陳の四大家族に代表されるもので、おもに國民黨反動派が權力をにぎつていた二十数年のあいだ反革命權力を直接その道

具として全国人民にたいする残酷な搾取と略奪をすすめ、これによつて發展してきたものである。彼らはもつぱら外国帝國主義にたよるとともに、国内の封建主義ともむすびついていた。抗日戦争の勝利ののちには、国民党反動政府が中国における日本、ドイツ、イタリアなど帝國主義諸国の財産を接収したため、この部分の資本主義經濟はすでに最高の段階まで發展し、全国の經濟命脈を独占していた。この国家独占資本主義は、労働者と農民を圧迫し搾取するだけでなく、また民族工業を圧殺し、民族ブルジョアジーの利益をそこない、帝國主義、封建主義と同様に、社会の生産力の發展にとつて大きな障害となつていた。したがつて、毛沢東同志はつぎのように指摘している。「新民主主義革命の対象は、中国における帝國主義の特権を取り消すいかに、国内においては、地主階級と官僚ブルジョアジー（大ブルジョアジー）の搾取と圧迫を取り消し、買弁的封建的生產關係を改め、束縛されているすべての生産力を解放することにある」②。

中国における帝國主義の特権を廢止し、買弁的封建的な生產關係をなくすということは、その性質からいえばブルジョア民主主義革命であつて、帝國主義を打倒する民族革命と封建的支配を打倒する民主主義革命とが結びついたものである。だが、中国の民主主義革命は、偉大な十月社会主義革命の勝利ののち、全世界がすでにプロレタリア革命の時代にはいつて、社会主義制度が日まじに繁榮し、資本主義制度が落日の運命にある、こうした歴史的条件のもとでおこつたものである。同時に、国内では、民族ブルジョアジーが政治のうえで二面性をもち、一方では帝國主義、封建主義、官僚資本主義に反対する要求をもつとともに、他方では帝國主義、封建主義、官僚資本主義と若干の連係をもつていたので、ひじょうに大きな動揺性と妥協性をもち、もはや革命を指導する責任をになうことができなくなつていた。民主主義革命の指導の責任は、中国社会のなかで、もつとも革命的、もつとも先

進的な政治力である労働者階級とその政党——共産党の肩にかかるはかなかった。労働者階級の指導する労働同盟は、すでにこの革命の基本的な力となっていた。したがって、中国の民主主義革命は古い型の一般的なブルジョア民主主義革命ではなく、新しい型の民主主義革命、すなわちプロレタリアートの指導する人民民主主義革命であって、すでに世界プロレタリア革命の一部となっていた。この革命をあくまでやりぬけば、資本主義の道をさけ、社会主義の道を実現することができる。毛沢東同志はかつて、つぎのように指摘している。「中国共産党の指導する中国革命運動全体は民主主義革命と社会主義革命の二つの段階をふくむ革命運動全体であり、これは性質をことにする二つの革命の過程であって、まえの革命の過程を達成してこそ、はじめて、あとの革命の過程を達成することができるのである。民主主義革命は社会主義革命の必要な準備であり、社会主義革命は民主主義革命の必然的な発展方向である。そして、すべての共産主義者の最後の目的は、社会主義社会と共産主義社会の最後の完成のために努力することである」③。中国革命の性質と前途にたいする毛沢東同志の分析は、連統革命論と革命発展段階論の統一についてのマルクス・レーニン主義の原理にたつものである。これは、革命を民主主義革命の段階で停頓させようとする右翼降伏主義の見方に反対しているとともに、民主主義革命の段階をとびこえようとする「左」翼冒險主義の見方にも反対している。毛沢東同志は、一方では民主主義革命の段階でかならず社会主義の要素（主としてプロレタリアートの指導権）を發展させ、民主主義革命の勝利の土台のうえに社会主義への移行をはからねばならぬということをあくまで主張するとともに、他方では二つの革命の段階を混同することなく、民主主義革命の段階では一般に民主主義革命の範圍をこえない政策をとることをあくまで主張した。中国革命はまさしく、毛沢東同志のさしめす方向にしたがつて偉大な勝利をかちとつたのである。

中華人民共和國の成立から社会主義社会の建設が完成されるまでは、資本主義から社会主義への過渡期である。過渡期がはじまつたときから、すでに労働者階級を指導者とし、労働同盟を基礎とする人民民主主義独裁、すなわちプロレタリアート独裁がうちたてられたこと、中国における帝国主義のすべての特権が廃止されたこと、官僚資本が没収され、強大な社会主義的国营経済がうちたてられたこと、土地改革をつうじて地主階級による封建的土地所有制が農民による土地所有制にあらためられたこと、こうしたすべてのことによつて、中国の社会の経済構造に根本的な変化がうまれた。

過渡期の初期における基本的な経済構成要素は、社会主義的国营経済、農民と手工業者の単独経営経済、資本主義経済の三種類であつた。この三種類の基本的な経済構成要素と関連して、労働者階級、農民と都市の小ブルジョアジー、ブルジョアジーという三つの基本的な階級が存在していた。三種類の基本的な経済構成要素のほかに、半社会主義的な性質をもつ協同組合経済（そのころ社会主義的な性質をもつ協同組合はまだひじょうにすくなかつた）と国家資本主義経済があつた。この二種類の経済は、いずれも過渡的性質のものである。ここにのべた五種類の経済構成要素のうちで、指導的地位をしめていたのは社会主義的国营経済である。過渡期の経済構造と階級関係から、過渡期の全体をつうじての主な矛盾が社会主義の道と資本主義の道とのあいだの矛盾、いいかえればプロレタリアートとブルジョアジーとのあいだの「誰が誰にうち勝つか」の闘争であることが決定された。レーニンはロシア十月社会主義革命の初期につきのようについている。「資本主義と共産主義のあいだに一定の過渡期があることは、理論上疑いをいれない。この過渡期は、この二つの社会の経済構造の特徴または特性を一つに結合したものとならざるをえない。この過渡期は、死滅しつつある資本主義と生まれてようとする共産主義との闘争、言いかえれば、打ちやぶられたが絶滅されていない資本主義

と、生まれはしたがまだまったく弱い共産主義との闘争の時期とならざるをえない」④。レーニンのこれらの言葉は、当時のロシアにあてはまるだけでなく、中国その他、資本主義から社会主義に移行するすべての国にあてはまるものである。

資本主義から社会主義への過渡期におけるおもな任務は、社会主義革命と社会主義建設を遂行することである。

ソ連その他の社会主義国の経験によると、それぞれの民族は、社会主義革命と社会主義建設をすすめる過程で、歴史的に形づくられた各民族の特徴と伝統には大きな違いがあるにもかかわらず、総じて社会主義の道をすすむすべての国に適用される共通の法則にかならず従わなければならない。一九五七年十一月にモスクワでひらかれた社会主義諸国の共産党、労働者党代表者会議の宣言では、こうした共通の法則をつぎのとおり明確に指摘している。マルクス・レーニン主義的政党を中核とする労働者階級が勤労大衆を指導してあれこれの形態のプロレタリア革命を遂行し、あれこれの形態のプロレタリアート独裁をうちたてること、労働者階級と農民の基本的な大衆およびその他の階層の勤労人民との同盟をうちたてること、基本的生産手段の資本主義的所有制をなくし、基本的生産手段の社会主義的共有制をうちたてること、農業の社会主義的改造を段取りをおつて実現すること、国民経済を計画的に発展させて、社会主義と共産主義を建設し、勤労人民の生活水準の向上をはかること、イデオロギーと文化の分野における社会主義革命を遂行し、労働者階級、勤労人民および社会主義の事業に忠実な知識人の強大な隊伍をつくりあげること、民族的抑圧をなくし、民族間の平等と兄弟のような友誼をきざさげること、社会主義の成果を守り、それが内外の敵から侵されないようにすること、プロレタリア国際主義を実行し、各国の労働者階級と一致団結することがすなわちこれである。これ

らの普遍的な真理は、各国のプロレタリアートのまえに、社会主義へすむひろびろとした道をさしめしている。民族の特殊性を過大視して、こうした共通の法則を否定するものは、かならず修正主義の泥沼におちいるのである。

一九五八年四月に、ユーゴスラビア共産主義者同盟第七回大会で採択された「ユーゴスラビア共産主義者同盟綱領」は、「モスクワ宣言」の社会主義革命と社会主義建設についての共通の法則に攻撃を集中している。徹頭徹尾修正主義のこの綱領は、ユーゴスラビアの指導グループが政治的にも思想的にもすでに労働者階級の裏切り者となりはて、帝国主義の忠実な手先となつていることをしめすものである。そのため、全世界のマルクス・レーニン主義的政党はこぞつてこれに批判と非難をあびせている。

各国の社会主義革命と社会主義建設が共通の法則をもつことを認めるからといつて、われわれは、各国の共産党、労働者党が自国の具体的な歴史的條件にもとづかず、他国の共産党の政策と戦術を機械的にうけついてもよいというわけでは決してない。レーニンはかつてこう言つてゐる。「すべての国民は社会主義へ行きつくであらう。それは避けられない。しかし、すべての国民がまったく同一のやり方で行きつくとはかぎらない。それぞれの国民は、民主主義のあれこれの形態に、またプロレタリアートの独裁のあれこれの変種に、また社会生活のいろいろの側面の社会主義的改造のあれこれの速度に、独特なものをもたらすであらう」⑤。なぜなら、帝国主義の時代の政治と経済の発展は不均衡であつて、プロレタリア革命が勝利をうるまえの各国の社会経済状況はそっくり同じわけではないからである。ある国では資本主義社会であり、ある国では植民地または半植民地半封建的社会である。また、おなじ資本主義社会あるいは植民地、半植民地社会にしても、国によつてそれぞれ状況が

ことなっているのである。各国のプロレタリアートは、革命の過程で、自国のブルジョアジーの手中から権力を奪取するばあいもあれば、おもに外国の侵略者の手中から権力を奪取するばあいもある、また国内戦争を経過する国もあれば、国内戦争を経過しない国もある。同時にまた、それぞれの国の過渡期における国際的環境もおなじではない。ある国は、一国だけで社会主義革命の勝利をおさめた。そのため、社会主義建設をすすめるにも帝国主義と闘争するにも、全世界の労働者階級の支持はあつたが、ほかの社会主義国の援助をうけることはできなかった。また、ある国は、多くの国の社会主義革命がすでに勝利をおさめ、社会主義が世界的な体制となつている時代に、過渡期にはいつた。

そのため、社会主義建設をすすめるにも、帝国主義と闘争するにも、兄弟国である他の社会主義国の援助をうけることができる。そのほか、各国は歴史や文化の伝統、さらには地理や人口などの面でも、それぞれ特徴をもっている。だからこそ、「モスクワ宣言」はこう指摘している。「社会主義諸国の共産党、労働者党は、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理をそれぞれの国の革命および建設の具体的な実践と結びつけるという原則を堅持し、各国の具体的な条件にしたがつて、社会主義革命および社会主義建設の共通の法則を創造的に運用し、たがいに經驗を交流し学び合わなければならない。それぞれの国、それぞれの民族の具体的特徴を十分に重視せず、ほかの国の具体的なやり方を機械的にうけつげば、教条主義の誤りをおかすことになる。

中国共産党は全世界のマルクス・レーニン主義的政党とおなじように、十月革命の道をつねに燈台とみなしている。社会主義革命と社会主義建設の共通の法則は、過去、現在、将来をつうじてつねにわれわれの行動の指針である。毛沢東同志はこのべている。「われわれ中国人民は、まさしく十月社会主義革命の道にしたがつてこんにちの勝利と成果をおさめたのである。中国人民は一貫して中国

革命を偉大な十月社会主義革命の継続であると見なしており、またそれをこのうえない榮譽としている」⑥。「中国革命には、自民族の特徴があり、これらの特徴を考慮にいれることはまったく必要である。しかし、革命の事業においても社会主義建設の事業においても、われわれはソ連共産党とソ連人民のゆたかな経験を十分に生かしている」⑦。

社会主義革命と社会主義建設の共通の法則を運用し、ソ連の経験をまなぶには、かならず正しい方針がなければならぬ。この方針というのは、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理を中国革命の具体的な実践と結びつけることである。わが党の三十余年にわたる経験は、われわれがこの方針にしたがいさえすれば、革命事業はかならず勝利と発展へすすむこと、これに反して、もしもわれわれがこの方針から離れば、革命は大なり小なり失敗または挫折をこうむることを立証している。毛沢東同志は、この点で、わが党がマルクス・レーニン主義の普遍的な真理を中国革命の具体的な実践とむすびつけ、厳粛な原則の精神を激刺とした独創的精神にむすびつけた、もつとも卓越した代表である。

政治の面から見れば、中国の過渡期の権力は、労働者階級の指導する労働同盟を基礎とした人民民主主義独裁である。この独裁の第一の役割は、国内の反動階級、反動派と、社会主義革命に反抗する搾取者を抑圧し、社会主義建設の事業の破壊者を抑圧することである。第二の役割は、国外の敵による破壊活動と可能な侵略を防ぎ、これによつて全人民の平和な労働を守り、中国を現代工業、現代農業、現代科学・文化をもつ社会主義国にきずきあげることである。したがつて、人民民主主義独裁は本質的にはプロレタリアート独裁であつて、これは資本主義から社会主義に移行するすべての国の権力と根本的性質のうえで完全に一致したものである。しかしながら、中国の権力形態はまたそれ自身の特徴をそなえている。中華人民共和国の成立ののち、中国の民族ブルジョアジーとその党派の多く

の代表的人物が、中国のプロレタリアート独裁の国家機関に参加するとともに、社会主義の事業のなかでひきつづき労働者階級および共産党との政治上の同盟をたもっている。この点では、ソ連の十月社会主義革命後の状況とはちがいがあある。そのおもな原因は、中国の民族ブルジョアジーが民主主義革命の段階と社会主義革命の段階とを問わず、二面性をそなえていることにある。毛沢東同志はつぎのように指摘している。「ブルジョア民主主義革命の時期には、民族ブルジョアジーは革命性の面をもつとともに、妥協性の面をもつていた。社会主義革命の時期には、民族ブルジョアジーは労働者階級を搾取して利潤を獲得する面をもつとともに、憲法をまもり、社会主義的改造をうけいれたいという面をもつている」⑧。そうである以上、労働者階級の指導的地位を確保するという条件のもとで、ブルジョアジーの政治的権利をのこしておくことは、かれらの政治的権利を剝奪するよりも、プロレタリアートと社会主義の革命事業にとつていつそう有利である。レーニンはかつてこう言つた。「搾取者から選挙権をとりあげる問題は、純ロシア的な問題であつて、プロレタリアート独裁一般の問題ではない」⑨。中国の具体的条件のもとでは、社会主義革命の段階で、民族ブルジョアジーが社会主義的改造をうけいれるという前提のもとに、労働者階級が彼らと一定形態の政治上の同盟を保ちつづけることは、プロレタリアート独裁の原則にそむくものではない。こうすることは、マルクス・レーニン主義の原則をかたく守るだけでなく、社会主義革命の実践のなかで、プロレタリアート独裁の理論をゆたかにし、発展させることになる。

経済の面では、中国の過渡期には、かならず国民経済ぜんたいにわたつて社会主義的改造を実施し、多くの種類の経済構成要素を単一の世界社会主義経済に変えなければならない。この任務は、ほかの世界社会主義国が過渡期に直面した任務と基本的におなじものである。だが、この面でも中国はそれ自身

の特徴をそなえている。第一に、中国は経済的に立ちおくれた国で、社会主義を建設するにはかならず工業、まず第一に重工業を發展させ、現代工業、現代農業、現代科学・文化をもつ国にかえなければならぬ。それにはわりに長い期間が必要である。この期間には、生産手段の所有制の面における社会主義革命が基本的によりとげられても、なおひきつづき力を集中して社会主義建設をすすめる、技術革命と文化革命をおいおい実現して、社会主義の物質的、技術的基礎をきかなければならない。第二に、中国の過渡期には、農民と都市の小ブルジョアが労働者階級の同盟者であるばかりでなく、民族ブルジョアもまた労働者階級の同盟者である。したがって、農民と手工業者の単独経営経済にたいして平和な改造の方法をとる必要があるだけでなく、資本主義経済にたいしても平和な改造の方法、すなわちマルクスのいわゆる「買戻し」の方法をとらなければならない。社会主義的改造の過程では、さまざまな移行形態がとられた。

中国の社会主義建設と社会主義的改造が経てきた歴史的過程は、おおよそつぎのとおりである。

一九四九年、人民民主主義革命が全国で勝利をおさめてのち、中国の革命は社会主義革命の時期にはいった。国民経済回復の段階には、われわれのおもな任務は、社会主義的国营経済のその他各種の経済構成要素にたいする指導を確立し、国民経済の回復と發展をうながし、財政経済状況の根本的な好転をかちとることであつた。当時、われわれはまだ、大規模の計画的な国民経済建設をすすめる条件をそなえておらず、農業、手工業、資本主義的工商業にたいする社会主義的改造はじまつたばかりであつた。この時期に、われわれは、外にたいしては抗米援朝のたにかいをすすめる、国内ではわりに大きな力をそいで土地改革、反革命鎮圧、「三反、五反」、思想改造などの大衆的な政治運動をすすめた。これらの運動は、のちの大規模な社会主義建設と社会主義的改造にとつて重要な意義をも

つものであつた。こうした一連の政治運動を経ていなかつたならば、社会主義的改造の急速な勝利をかちとろうとしても、それは不可能であつたらう。

一九五二年、中国の財政経済状況が根本的に好転し、国民経済回復の段階が終りをつげると、中共中央は過渡期における党の総路線を明確にさだめた。それは、かなり長い期間に、社会主義的工業化を一步一步実現し、農業、手工業、資本主義的工業にたいする社会主義的改造を一步一步なしとげるといふことである。党の総路線は、われわれのすべての面での活動をみちびく燈台であつた。かがやかしい総路線にみちびかれて、中国は一九五三年から国民経済発展のための第一次五カ年計画の実行にとりかかるとともに、農業、手工業、資本主義的工業にたいする社会主義的改造の進展を早めたのである。二、三年の努力をへて、一九五五年の下半期になると、全国に澎湃たる農業協同化の高まりがあらわれた。農業協同化の高まりはまた、手工業と資本主義的工業の社会主義的改造の高まりをうながし、一九五六年には生産手段の所有制の面での社会主義革命が基本的になしとげられた。一九五七年、中国の社会主義建設の第一次五カ年計画はみごとに完遂され、社会主義的工業化の初步的な基礎がきずかれた。

農業、手工業、資本主義的工業にたいする社会主義的改造が基本的になしとげられたことは、経済戦線における社会主義革命がすでに決定的な勝利をおさめたことをしめすものであつた。だが、中国には打倒された地主階級と買弁ブルジョアジーの残存分子がまだ存在しているし、ブルジョアジーにたいしてはひきつづき改造をすすめるなければならない。小ブルジョアジーの改造もまだ終つてはいないので、階級闘争は決して終りを告げたわけではない。社会主義制度をかためるためには、なお政治戦線と思想戦線における社会主義革命をすすめるなければならない。一九五七年の整風運動と反右派闘